

図書だより

〈第8号〉

昭和58年1月17日
呉工業高等専門学校
図書委員会

徳山高専図書館を訪ねて

図書主任 大林 潤

10月の下旬、徳山高専の図書館を訪問しました。山の南麓を切り開いた高台に位置し、図書館は、正面玄関のすぐ右側にあって、明るい二階建ての建物でした。一階はロビーで、かなり広い、落ち着いた部屋でした。二階が図書館と視聴覚室になっていました。ここで、中国地区高専の図書館責任者が集まって、会議を開いたのですが、その主要な議題は、学生諸君の図書館利用促進、読書意欲の向上というものでした。どこの高専も学生諸君の図書館離れを防ぎたいと、あれこれ工夫をしているようでした。たとえば、推薦図書100選、感想文コンクール、ブックハンティング、集団読書用図書の備付け、文庫コーナー、参考書コーナー、カセットコーナーの設置等々です。本校も本校なりの工夫をしておりますが、根本的には学生諸君の読書意欲が問題となりましょう。図書館離れ、読書離れと学習意欲の減退が正比例してすすんでいるとの指摘もあって、一同、概嘆、反省しきりでした。

楽しみはそぞろ読みゆく書の中に我とひとしき人をみし時

この歌は江戸期の歌人、橘曙覧が歌ったものですが、学生諸君も古人にならって、良書に親しみ、高専在学中に、座右の書なるものを見つけたいものです。

「悪魔の飽食」

(森村誠一)

3A 平石正衛

「悪魔の飽食」、これは、第二次世界大戦中の旧日本陸軍の一部隊の様子を書いた、ノンフィクションである。

この部隊は、満州第七三一部隊、通称石井部隊と呼ばれていた。ハルピンに、関東軍防疫給水本部と称する本部を置き、広大な敷地の中で活動していたのである。

部隊長は、石井四郎軍医中將で、以下約二千六百余人の人々が従事していた。その大部分が、日本内地の大学医学部や医科大学や民間研究所から派遣された研究者、学者であり、彼らの身分は、軍属、技師であった。

さて、この部隊には、医学に通じた者が、非常に多いことに注目されたい。そう、この部隊は、細菌戦を想定した秘密実験を繰り返したのである。

その秘密実験とは何か。それは、恐るべき人体実験であったのである。彼らは、最早、人間でなく、「丸太」と呼ばれるただの実験材料—モルモットと同じような—であった。

「丸太」は、石井部隊の所属した関東軍の手に依って「逮捕」された、ロシア人、中国人、モンゴル人、及び朝鮮人であった。関東軍は、日本帝国の傀儡政権であった満州国を實際、支配していたのである。丸太は、毎日「消費、されるから、それを補給するのがこの関東軍であった。「消費、された、つまり非人道的実験により殺された者は、三千人にものぼるのだ。彼らは、名前もわからず、中には、この世に生を受けたばかりのものが、死んでいったのである。

丸太は、人間でないから名前はいらない。一人ずつ三ケタの番号をつけられた。そして男マルタ、女マルタにわけられ、実験されたのである。彼らには、ペスト、コレラ、チフス、凍傷、女マルタに対しては、特に梅毒、その他いろいろの、ありとあらゆる実験が課せられたのである。

ある女性は、生きたまま解剖された。中肉中背の中国人女性で、年齢は24・5才であった。クロロフォル

ムを浸ませたガーゼ布で鼻と口を覆う。五分もすると、意識不明となるからそこで、咽喉にメスを当て、止血しながら腹から陰部へと開いていく。開きながらいろいろな実験をする。女マルタの場合、女性生殖機能を中心として、いろんなところにさまざまな測定器具を当てがい、排卵機能を調べたり、微細な解剖を行う。脳を開いて、延髄のところを細いメスでさわる。マルタの口が突然ぱくっと開いて、わく、わく、わくと歯を鳴らして口を開いたり閉じたりする。中脳の小さな隆起をさわると、足がびんと起ったり、腕が動いたりする。こういう実験を行いながら切開したところを片っぱしから標本にしていった。

しかし、中には、ただ健康な少年の臓器が欲しかったために、誘拐されて解剖された中国人少年もいたのだ。彼も、生きたまま解剖され、各臓器に腑分けされた。これらの臓器は、ホルマリン液の入ったガラス容器に入れられ、陳列されたのだ。

さて、このように二日に三人の割合で「消費、されるマルタは、常に補充され、1939年～45年まで、三千人以上もの人間が死んでいったのだ。彼らには、人間の資格も与えられず、ただの実験材料として、モルモット並に扱われ死んでいった。

そして、忘れてはならないのは、彼らを殺したのは日本人なのだという点である。戦争という人間を変える狂気が、そうさせたといえるかもしれない。だけど、とにかく、太平洋戦争において、特にアメリカによる原爆投下という被虐の立場に立つ、我々日本人が、殺していたのだ。

ドイツ軍のアウシュビッツ大虐殺は、国際的に追及され、未だに厳しく責任を問われている。しかし、石井部隊は、戦後、アメリカ軍へ資料を渡して一切の追及をのがれ、戦史から消えきっていた。現在、この石井部隊が悪魔の実験から得た細菌戦のノウハウは、米軍生物、化学戦部隊で生き続けているのだ。

最後に、この本を読んで、ほとんどの人がその残虐性にショックを受け、こういうことがあってはならないと思うだろう。しかし、中には各種実験に興味を持ち、見てみたいと思う人もいるのではないかな。読むにつれ、興奮を覚えてしまう。果たして、このような人間がいる限り、いつの世でも同じ事が繰り返えされるだろう。

「九月の空」

(高橋三千綱)

3A 大竹 真理子

この本には、同シリーズで三編の作品があったが、「五月の傾斜」「九月の空」の二編が興味を持って読めたようだった。このシリーズは「勇」という一人の高校生が主人公となっているのだが、彼という人物の剣道を通しての友情、愛情、生き方を「男性」の青春の生き方として、とてもうまく描いてある作品だ。

まず最初に、描写がとてもリズムカルであり、躍動しているのだ。だから言葉一つ一つにとっても現実味があり、一場面、一場面が、頭の中に次々と浮かんで来て、話がとてもスムーズに進むといった感じなのだ。そして、勇が怒ったり、悩んだりするところでは、その怒りや悩みがこちらにも切々と伝わって来て、一緒になって考えてしまうようで、不思議に読者を引き込んでしまうような魅力が潜んでいるようだ。剣道の試合の描写も同じく、若者達の躍動感が、文全体にみなぎっていて、迫力のあるものだったし、季節の風や空などをうまく関連させて取り入れ、若者の行動、心理を良く押さえていたと思う。

また作品全体にユーモアがあふれ出ている、一瞬の表情、行動をも素早く描写したりしているところなどは、彼ならではの味といったところだろう。

内容を具体的に迫ってみると、高校生の勇が家族や友人達の間をさらりと生き、剣道に熱中する中で、孤独感に陥ったり、旅を通して自分を見つめたり、女学生に対する愛情を覚えたりしていきながら成長していくその姿を、まさに「男性の青春」として歌い上げたものである。

特にこの小説の大舞台である、剣道の描写はとてもしずかっていた。勇の剣道に対する情熱、喜び、哀しみ、怒り、反発、どれを取っていても鮮やかに、そして瑞々しくさわやかに描いてあった。そして私が最も強い印象を感じた部分は、勇が部内の試合で勝ち、公式試合に出られるはずだったのに、勇が一年生だということだけで、三年生が出場することになったのを知った場面だ。勇が傾けてきた情熱をもぎ取られ、先輩に抗議をしてもうまくいくめられ、持って行き場のな

い勇の怒りをうまく表したい場面だった。スポーツマンの姿というか、男性の情熱、真剣さというか、やはり女性とは一種異なった世界をのぞいたような気分になった。

とにかく文章の躍動が感じられるこの小説を、私たちと同年代の人たちに、是非読んでほしいと思う。



「これが地震雲だ —雲はウソをつかない—」

(鍵田忠三郎)

3M 菅 俊 博

雲は、誰もが身近に見ているものです。その雲で地震の予知ができるというのは、昔から中国では雲は地震に関係あるのではないかと言われてきました。鍵田氏は、九州大学の真鍋助教授と雲や気温による地震予知の研究をし、また中国の科学院物理研究所の人に会い、情報の交換をして地震予知を確実なものになさろうとしています。その地震雲というのを御存知の方もおられるでしょうが、長く棚引いた雲で数十分も形がくずれないのです。そして、その雲で地震の震源地、マグネチュード、近い将来に起こるかどうかわかる、と言うのです。このことを少し紹介しましょう。震源地の方向は、雲の延長、または、直角方向で、距離が近いほど雲の出ている時間が長いそうです。地震雲の高さが低いと地震が起こらないそうです。地震の大きさは、快晴で、地震雲だけくっきりと出ているときは、かなり大きいそうです。夕焼や朝焼の様子でも知ることができるそうです。朝、山際が燃えるように赤くゆらめいていたら、その日のうちに地震は起こるそうです。グアテマラでは、マヤ族の酋長が、夕空が赤く異

常なこと、地中にいた虫が地中から出て来ること、飼っている鶏や小鳥が止まり木から降りてくる、三つの徴候から、地区民に避難命令を出して、その地区だけ無傷であったそうです。

一方、九州大学の真鍋氏は、全国地震雲分布図と気温による地震予知の研究をしておられます。地震が起こる地域の気温は、高くなるそうです。地震予知もこの様な方法で予知すると90パーセントはあたるといいます。詳しく知りたければ、この本を読んで下さい。地震雲同志で地震が起こらない話や化学式も挙げてあります。後半は、中国科学院の人との対談が載っています。最後に付録といった感じで、地震雲の分布図が載っています。みんなが興味を持って読み、詳しく知れば、グアテマラのマヤ族の酋長のように、被害を事前に防ぐことができると思います。日本は地震大国であるので、これからの日本人には必読の書ではないでしょうか。



専門バカと読書

4 C Y . 0

「芸術は爆発だ！」なんて言った人がいる。読書について言えばどうだろう。「読書は毒者だ！」なんて言えないだろうか。これの意味するところは、下手に読書をする、当人は周りの人に悪影響を及ぼす人、つまり「毒者」になりかねないということだ。専門バカなんてのは下手な読書のいい見本だ。この学校の教官の中にも一人や二人、いるんじゃないだろうか。

「雑学」なんて聞くと「くだらないことばかり知

ってること。」なんて思う人がいるかも知れないけど、決してそうじゃない。雑学は、くだらないかどうかは別としても色々な事を知ってる訳だから、これが結構役に立つ。ヘンリー・ベッティンガーと言う人は「専門バカの最も良い解毒剤は広範囲にわたる読書だ。」なんて言った位だから。

雑学の応用範囲を一つ御紹介しよう。本なんてものは決して正しいことばかりは書いてない。結構間違った事も書いてある。そして、その間違った事は本筋とはあまり関係のない、余談の部分に多い。(だから余計に見つけにくいのだけれど、ひどいになると本筋に堂々と書いてある。)それで、その間違った事かどうかを見抜くのに雑学の知識が要る訳で、雑学は読書に必要不可欠と言っても言い過ぎじゃない。だから、雑学も読書の内。そして、その雑学も手当たり次第に本を読むこと(これが前に書いた「広範囲にわたる読書」のことですが)によって得られるもの。まあ、突き詰めて言えば、読書と雑学は持ちつ持たれつと言うところか。

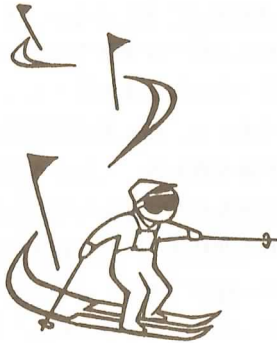
ついでに読書の楽しみ方も一つ御紹介させて貰いましょう。これは僕の体験したことだけれど実に楽しいと思うので、この文章を読んでいる方も一度やって見て欲しいと思う。それは、図書館で借りる本を読んでいると、たまに先生も借りてた本に出くわすことがある。そしてその本が名の知れた作家の小説で、その中にはピンクも少し混ざっていたりすると急に先生に親しみを覚え始める。「あの先生もこんな小説を読んだんだな。」とか、「どういう思いでこの部分を読んだんだろう。」とか思ったりする。僕はこういっことを「五木寛之」の書いた小説を借りた時などに、体験した。これは友達の間にも言えることで、例えば「あんなマジメッ子でも結構いやらしい小説を読んでるんだな。」なんて思うことも無い訳では無い。現にある。これが僕のオススメ読書の楽しみ方。友達と本の貸し借りをやって見てはどうだろう。

これから、僕の読書を参考程度に書いて見よう。僕はあまり本を読まない。その上、読むのは授業中か寝床の中。つまらない授業の時は、寝るよりはましだと思って小説を読む。先生も学生が小説を読むのが嫌なら、面白くなくてもいいからせめて分かる授業をすることだ。僕は小説を読むのはテレビ番組を見るようなものだと思っている。授業中にテレビ番組を見るよう

なもんだから、授業中の読書は実に楽しい。当分の間は止められそうも無い。どんな作家のものを読むかと言うと、山本周五郎や曾野綾子、井上ひさし、と言ったところ。一冊だけ推薦すれば、山本周五郎の「寝ぼけ署長」。ま、これは好みにもよるけど、僕としては是非読んで貰いたい本。あまり感動はしないけど。

最近、買い漁りで、先月中で本代に2万円程使ってしまった。お蔭様で財布は軽くて運びいいようです。買った本は、小説を除いて全て「斜め読み」。この読み方なら結構速いし、後でまた知りたいことがあったら再度開いて調べればいい訳で、これで十分だと思う。知らない人の為に言っとくけど「斜め読み」は本当に「斜め」に読むんじゃないんですよ。読書を途中で止めてしまう人は、こういう読み方でもいいんじゃないだろうか。それから、面白くない本だったら止めてもいいと思う。本を読むのが嫌いになるよりは、まだいい。時間をかけて面白い本を探すべし。以上が僕の読書姿勢である。読書は気楽にするもの、読むのだったら寝床の中だろうと構わないのだ。

ずいぶん長々と書いて来たので最後にもう少しだけ書いて終わりにしたいと思う。僕は或る小説を読んで次の言葉が心に残った。それは、「人が死んで後に残るものは、その人が集めたものではなくて与えたものである。」あなたは何か残せるだろうか。



人生の行動学

5M 松本 宏

僕は以前から歴史には興味があり、特に、ある時代の社会体制の中で、人間がいかに生きてか、ということに興味を持っている。それは、すなわち、僕自身の

将来の人生の荒波をいかに乗り越えていくか、ということにとっても参考になるのである。

そういった内容の本が『日本のリーダー』全15巻(TBSブリタニカ発行)である。まだ、第1巻の「明治天皇と元勳」と第15巻の「世界を駆ける企業家」の2巻しか発売されていないが、その中には、何人かの生きざまがエピソードなどをまじえて書かれている。

第1巻の「明治天皇と元勳」では、明治天皇、西郷隆盛、木戸孝允、大久保利通、岩倉具視、伊藤博文が収録されている。この中で僕が特に興味をもったのは、大久保利通と西郷隆盛である。彼ら2人は、共に薩摩藩出身で血縁の者よりも深い間がらであった。その大久保と西郷が、征韓論で対立し、西南の役では敵となって戦った。それは、僕には理解しがたいことであった。しかし、2人の性格を比較することで理解することができた。大久保は、先見の明が見分ができ、かつ、冷静な人間であった。それに対し、西郷は、先見性はあったが、感情主義者であった。彼は感情的な行動をして失敗した。このことから、先見的、かつ、決して感情的になることなしに冷静で決断力をもたなければならないことを痛感した。もう一つ興味深いことは、収録人物のうち木戸孝允を除いてすべて悲惨な最期をとじている。これから、これらの人物が、「新生日本の建設」を目標に、自分の人生を素直に、命をかけてまで貫きとおしているということが感じとれる。まとめると、この第1巻の「明治天皇と元勳」が、僕に教えてくれたことは、目を大きく開いて世の中を見、そして今、自分が何をなすべきか、という目標をもち、それに向かって突き進め、というところであろうかと思う。

次に第15巻の「世界を駆ける企業家」では、御木本幸吉、出光佐三、松下幸之助、本田宗一郎、盛田昭夫が収録されている。御木本幸吉は真珠王と称され、不屈の商魂の持ち主である。彼は「金持ちになりたい。」という単純な目標から、金持ちという目標への方法を模索し、付加価値の高い真珠の養殖を手がけるにいたった。僕は彼のそのような単純な目標を実現した行動力には驚いた。また、それに挑戦した逞しい企業家精神に、少しでも近づきたいと思う。出光佐三は、出光興産の創業者であるが、出光興産には、組合、出勤簿、定年制がない。彼の経営思想は、「経営者と使用人」という概念がなく、会社は家族で、仕事は金もうけを目

的とするのではなく、人間を作るものである。」というもので、僕が理想としていたものが実現されていることに驚き、そして、とてもうれしい気がした。つまり、「人間が人間以外のものの奴隷になるな。」ということである。我々が今から自分自身の人生を歩んでいくのに重要なことは、自分自身で1つの目標を持ち、それに向かって突き進むことであり、決して自分の知識におごらず、謙虚な気持ちを持って、あらゆる人々の教えを素直に受け入れることである。僕は、これら2冊の本を読んでみて改めてそういうふう感じたのである。



「自分を知る」 ということ

白川 洋二

「窓ぎわのトットちゃん」を読んだかい？ 450万部も売れてるんだって。英訳本TOTTOCHAN AT THE WINDOWも出たよ。森村誠一の「悪魔の飽食」を読んだかい？ ここ三週間東京・大阪の大都市で連続ベストセラー。堂々100万部突破!!

情報過多の時代です。一昨年、1981年に日本で出版された単行本・雑誌類は41億2千万冊だそうです。とても追っつけませんね。

私はあまり本を買いません。しかし本はたくさん読んでいます。私が本を買わなくなった理由、それは、アメリカ人の生活態度からヒントを得たからです。アメリカのニュージャージー州にあるラトガース州立大学で学んでいた頃、日曜日も夏休暇中も学校の図書館は昼夜休みなく開放されていて、学生だけでなく町の人たちも図書館を実によく活用していました。本の貸出期間、貸出冊数もゆとりがあり、返却は、校内や町のあちこちに郵便ポストみたいなボックスが設置してあ

って、それに入れておけば係員が定期的に集めてまわる、といったきまりになっていました。大学関係者の人たちの家に招かれて行った際、目についたことは、自分の本としての蔵書は割に少なく、さしあたって必要な図書館印のある本を置いている場合が多く、日本のように何々全集、何々百科辞書などをぎっしり本棚に積んでいるといった光景にはお目にかかれなかったということです。町の中にも数々の図書館があって、市民は気軽に図書館を利用して勉強しています。ちなみに、アメリカ ミネソタ州のミネアポリス市と北海道の札幌市（ともに人口100万程度）との図書館の数と本屋の数を調査したのだそうですが、丁度それぞれの数が逆に近かったそうです。また、ペーパーバックなどは、同じ本でもスーパーマーケットで買うと何%か安いのです。

このようなアメリカ人の生活習慣から、私は、第一には、日本で図書館がどんどんできて、どんな本でも気軽に利用できるようになってほしいという願いと、第二には、本がもっと安く、時には何%か割引きで買えるようになってほしい、本の値段の高さに反抗心を示すということで、私は本を個人ではあまり買わないことにしているのです。

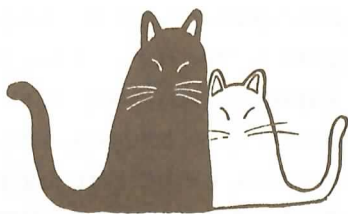
私は学生時代から海外へ出てみたいという夢を持ち続けてきました。（今でもその夢は変わりませんが）その頃手にした北杜夫の「どくとるマンボウ航海記」の中に、「船員たちが船で食事をするときは、額の堅さと腹の堅さが同じ位になるまで食べる」といった意味のことが書いてあって、私もその頃食欲がもりもりだったから、我が意を得たり、とばかり我が家での食事のときは、その例を出して旺盛な食欲を満足させたものでした。それで北杜夫の作品が好きになって、「どくとるマンボウ途中下車」「どくとるマンボウ昆虫記」などマンボウシリーズをはじめ、「月と10セント」「酔いどれ船」などの彼の作品を読み続けてきました。闊達自在な文章で、私を幻妙な冒険物語の世界に誘ってくれる、と同時にちくりとした厳しい文明批評と彼の世界観がのぞいているのが、私にはこたえられない魅力だと感じられるのです。

北杜夫のおかげかどうか、何とか日本を脱出してアメリカやイギリスで勉強する機会にめぐまれて、日本という国、日本人、日本語というものを客観的に眺めてみようという気になってきました。イザヤ・ベンダ

サン「日本人とユダヤ人」E・ウィルキンソン「誤解」E・O・ライシャワー「THE JAPANESE」李御寧「縮み志向の日本人」ホセ・ヨンパルト「にんげん研究ニッポン人」G・クラーク「ユニークな日本人」鈴木孝夫「閉された言語・日本語の世界」石川弘義「日本人とことば」池田摩耶子「日本語再発見」バーランド「日本人の表現構造」などなど、読んでいくうちに地球社会の中で、われわれのおかれている立場、われわれに期待されていることが何であるか、ということがわかりかけてきたような気がします。つまり、自分を知ることを通して、自分がこれからなさなければならないこと、例えば日本は、科学技術の面でも、経済の面でも、いまや地球社会をリードしていく立場にあるとか、核戦争の脅威が深まる中で、われわれこそ平和運動を進めて行く先頭に立たねばならないとか、そのために日本人は、自分の考えていることを言葉や態度で堂々と自己表現ができなければならないといったことなど、地球社会の一員としての自分を考えるという立場を、これらの本は私に認識させてくれたと思います。

かくして、世界を股にかけて歩いてみたいという自分の情熱はいささかも衰えていません。新田次郎「アラスカ物語」吉村昭「ポーツマス旗」柳田邦男「マリ子」北杜夫「輝ける碧き空の下で」(北杜夫がまたできてきましたが)、スケールが地球的で、自分の想像力を満足させてくれる世界がそれらの中に描かれていると思います。

イギリスの作家チャールズ・ラムは一般の読書のことを「私たちは『あれを読んだ、というために読む』と皮肉っていますが、私たちは情報過多の社会の中で「読まされる読書」へ落込んでいるのではないのでしょうか。私にとってこれまで自分が出会った数々の本は、自分を知るということと、自分の世界観を拓げるということをしてきてくれたし、これからもそうであってほしいと思っています。



図書にまつわるクイズ

出題者

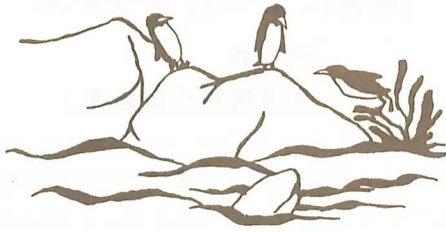
高須勝也(図書係)

学生の皆さんには勉強・読書に忙しい毎日であろうと拝察いたします。そこで、少しリラックスしていただくため、クイズで楽しんでいただく所存です。ヒントを差しあげるのは失礼かとも思いましたが、あえて非礼を省みず申し上げます。すなわち、解答はすべて図書室内にあります。皆さん方にとっては易しすぎる問題ではありましようが、あえて確認なさりたい方は図書室までお越しください。なお、あらかじめ申しあげておきますが、全問正解されましても賞品は差しあげかねますのでご了承ください。遊びのところで臨んでください。

問1：図書が現在一般にみられるような形態になるまでには永い歴史を必要としました。現在では紙(洋紙)に文字その他が印刷されているのが普通です。では紙が発明されるまで人類はどんな材料に情報を筆記し保存していたのでしょうか。四種類以上あげてください。ただし、金石(文)は除きます。

問2：近頃『知的・・・』という書名の図書が多く発行されています。私が最近読んだものでは『マイコンによる知的生産の技術』などがあります。これら『知的・・・』の元祖ともいべき図書が岩波新書として1969年に発行されていますが、その著者名と書名は何でしょう。著者は国立民族学博物館の初代館長です。この設題に対して、慧眼な皆さんは1873年に英国人P. G. Hamertonが『Intellectual・Life』をMacmillan社より発行しているのではないかと反論されるでしょう。しかしここでは、あくまでも邦語図書を対象にしていることをお断りしておきます。ついでに申せば、前記図書は『知的生活』という書名で1979年に講談社より訳書がでております。

問3：「虚栄」や「名誉」という言葉について、皆さんはどんな感じを持たれるのでしょうか。ある日本の哲学者(故人)は、ある図書の中で独自の見解を開陳



しております。これだけでは雲を掴むような問題になりますので、その極一部を抜粋します。「虚栄心はまず社会を対象としている。しかるに名誉心はまず自己を対象とする。虚栄心が対世間的であるのに反して、名誉心は自己の品位についての自覚である。」前後のパラグラフは省略しましたが、これには「名誉心について」という小題がつけられています。この図書は前記の小題を含め「・・・について」という23の小題で構成されます。さて、この哲学者名と書名は何でしょう。この人には外に『哲学ノート』『パスカルに於ける人間の研究』『歴史哲学』などの名著があります。

問4：本木昌造（1824～75）という人をご存知でしょうか。この人物はわが国の近代的活版印刷の創始者です。この頃では印刷技術も進んでいるようですが、読書家を自認する人には記憶しておいてほしい人物だと思います。ところで、本木昌造以前にもわが国には活字印刷の歴史はありました。所謂古活字版とか切支丹版とかいわれるものです。いずれも16世紀末から17世紀にかけて行われたものです。そこで問題ですが、わが国の著名な小説家（故人）で、その所蔵する切支丹版『れげんだ・あうれあ』に「多少の潤色を加へた」作品がふたつあります。さて、この小説家名とふたつの作品名は何でしょう。彼は澄江堂主人とか我鬼という別号をもち、晩年は健康をそこない自殺しております。

問5：活字といえば、皆さんはすぐに金属活字を想像されるでしょう。しかし、前問でふれた古活字版はほとんどが木活字だったのです。しかも漢字は一字一個を原則としましたが、仮名活字は二字ないし五字の連続活字もありました。ところで、わが国の印刷史上では活字版（活版）よりも木版印刷（整版）の方が歴

史も古く、また広く行われました。勿論、本木昌造以前の話です。そこで問題ですが、現存する世界最古の印刷物とされるものがわが国にあります。さて、それは何というものでしょうか。この印刷物には今もって銅版説と木版説がありますが、活字版でないことだけは確かなようです。764（天平宝字8）年恵美押勝（藤原仲麻呂）の乱の平定に起因し、また今日その大部分は亡びて、法隆寺にのみ伝存しています。

問6：古来、わが国にとって中国文化の影響は計り知れないものがあるようですが、製紙法の伝来もそのひとつといえましょう。紙の製法は中国で後漢初期の105年、蔡倫（さいりん）により発明されたといわれます。それが朝鮮を経て610（推古天皇18）年、高句麗の僧・曇徴（どんちょう）によりわが国に伝えられ、それに改良を加えてわが国独特の流し漉きによる手漉き和紙を完成させました。平安時代初期頃のことです。さて問題ですが、手漉き和紙の原料を三つあげてください。

問7：「なせばなるなさねばならぬ何事もならぬは人のなさぬなりけり」という格言みたいな歌がありますが、さてこれは誰の歌でしょうか。出典も明らかにしてください。

問8：ロシア史に関心のない人でも、スチュパン＝ラージンやエメリヤン＝プガチョーフの名前は知っているでしょう。ところで同じロシア人でこのプガチョーフの農民戦争（反乱）に強い関心を持つ人物がおり、『プガチョーフ反乱史』（1835年刊）を著わしますが、この史的労作はあまり高い評価をうけなかったようです。そこで彼はこの労作を土台にして一篇の歴史小説を書きあげます。これは高い評価をうけ彼の代表作のひとつになりました。そこで問題はこの人物名と小説の題名（訳書名）を教えてください。

問9：とにかく謎めいた人物です。それは彼の学統や経歴などがほとんど知られていないからだけではありません。封建時代（江戸時代中期）にあって、なぜあのような革命的ともいえる思想を生みだしたのだろうか、という点からもそのことはいえます。彼は働く農民の生活に至上の意味を見だし、封建支配体制

を徹底的に批判しています。支配階級の略奪を合理化した孔子、孟子その他の教学の虚偽をつくことにより、支配階級の実体を白日の下に晒します。そして、耕作農民の生産労働を人間生活の唯一の正しいすがたとみなしたようです。私自身この人物とその思想については勉強不足ですので、ヒント（要約）がごちないことをお許しください。さて、この謎めいた人物とは誰でしょう。またその著作をふたつあげてください。

問10：1958年7月27日にその事件は起りました。現場が東京都港区新橋にあるバー・メッカであったことから、メッカ殺人事件といわれます。主犯はK大出身の正田昭（本名）で、1963年に最高裁で死刑が確定し、1969年に処刑されます。一方、事件発生の年に東大医学部を卒業した精神科医・小木貞孝（本名）は、その後医官として東京拘置所に勤務することになります。二人の最初の出会いは1956年4月のことでした。正田は殺人事件の被告人、小木は拘置所職員（医官）という立場の相違はありましたが、ほぼ同年齢であり、しかも二人ともS・カンドウ神父に面識があることなどから、二人は急速に打ち解けてゆきます。その後、面接あるいは文通の形で交際が続きます。少し長くなりましたが、これは事実です。ところで小木は後に長篇小説を発表します。その成立には、前記のような正田との交際や拘置所医官時代の経験が下地になっているように思われます。そこで問題ですが、その小説の題名と小木のペン・ネームは何でしょう。なお、その小説は第11回日本文学大賞を受賞しています。

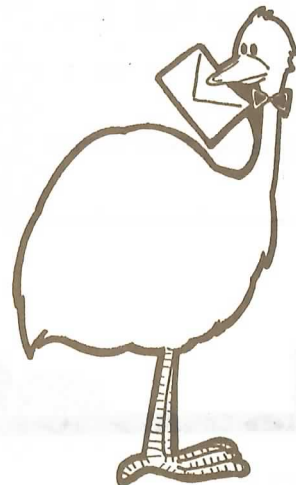
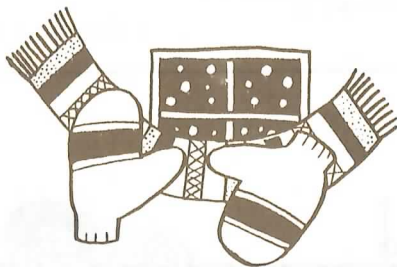
高校生の読書

「生活の中での読書の位置」

■「趣味没入型」は読書派

どんな生活パターンをもつ生徒がよく本を読み、あるいは読まないのか。それをさぐるために「楽しいこと」を「数量化Ⅲ類」で解析し、さらにクラスター分析を行って6つの型に分けた。

6つの型のうち最も本をよく読むのは、Bの「趣味没入型」で全体の14%を占める。男女比は、男47%、女53%でやや女に多い。この型は静かに読書をするのが好きで、趣味にも打ち込む。楽器の演奏や合唱も好きだが、派手なことはあまり好きでなく、流行のものを身につけたり、歌手やタレントの公演や映画に行くことも好まない。スポーツもどちらかという苦手、街をぶらつくことも好きでない。どちらかというと家にもって読書するタイプだが、テレビをみることや深夜放送を聴くことはあまり好きではない。本の読書量は2.7冊で、高校生全体の1.3冊の2倍以上になる。それでも1カ月に1冊も本を読まない生徒が約3分の1の32%もいて、いまの高校生がいかに本を読まないかを如実に物語る。雑誌は高校生全体の8.2冊とほぼ同じ8.0冊で、一般の高校生と変わらない。



高校生の「楽しみのタイプ」と読書量

型 の 名 称	全体に占める割合	型の中の男・女比		他の型に比べて比率の高いもの	他の型に比べて比率の低いもの	1カ月間に読んだ本の平均量数	1カ月間に読んだ雑誌の平均量数
		男	女				
A. 楽しみ享受型	38.7%	56.8%	43.2%	スポーツをする ゲームをする 音楽を聴く	ボーイ(ガール)フレンドといっしょにいる 流行のものを身につける オートバイを乗りまわす 勉強をする 家族とおしゃべりをする にぎやかな街をぶらつく レストランなどに食べに行く ひとりではんやりする 公演・映画に行く	(0冊 50.7%)	(0冊 6.2%)
B. 趣味没入型	13.9%	46.7%	53.3%	趣味のことをする 楽器をひいたり合唱をする 本を読む ひとりではんやりする	オートバイを乗りまわす 流行のものを身につける テレビをみる スポーツをする 公演・映画に行く ラジオの深夜放送を聴く にぎやかな街をぶらつく ゲームをする	(0冊 31.6%)	(0冊 7.5%)
C. ワイワイ仲良し型	26.3%	33.2%	66.8%	友達とおしゃべりをする テレビをみる マンガを読む 公演・映画に行く 家族とおしゃべりをする	オートバイを乗りまわす 勉強をする ひとりではんやりする	(0冊 53.8%)	(0冊 5.4%)
D. 孤独型	2.3%	72.5%	27.5%	ひとりではんやりする 勉強をする 本を読む	音楽を聴く マンガを読む にぎやかな街をぶらつく 流行のものを身につける テレビをみる 楽器をひいたり合唱をする レストランなどに食べに行く 公演・映画に行く ラジオの深夜放送を聴く ゲームをする スポーツをする 趣味のことをする 家族とおしゃべりをする オートバイを乗りまわす	(0冊 44.0%)	(0冊 14.3%)
E. つっぱり型	5.5%	80.2%	19.8%	音楽を聴く ボーイ(ガール)フレンドといっしょにいる オートバイを乗りまわす	家族とおしゃべりをする 勉強をする 本を読む	(0冊 71.6%)	(0冊 6.3%)
F. 流行追従型	12.9%	33.3%	66.7%	公演・映画に行く ボーイ(ガール)フレンドといっしょにいる にぎやかな街をぶらつく レストランなどに食べに行く 流行のものを身につける	趣味のことをする 本を読む 楽器をひいたり合唱をする ゲームをする	(0冊 63.5%)	(0冊 4.0%)



■「孤独派」は書齋派

B型について本をよく読むのはDの「孤独型」だが、この型は全高校生の2%しかない。ひとりでぼんやりしたり、読書や勉強が好きだが、他人とワイワイ騒ぐのはきらい。Bの「趣味没入型」が楽器の演奏や合唱を楽しんだり、趣味に打込んだりするのに対して、この型は楽しみのきわめて少ないタイプ。彼らの楽しみといえば、読書、勉強くらいである。大正期の書齋派読書人に似ている。本は月に2.0冊と比較的よく読む。この型も本を読まない「0冊生徒」は44%いて、高校生全体の52%より8%少なくなっている。しかし、雑誌を読む量は6つの型のうち最も少なくても6.2冊、雑誌を1カ月に1冊も読まない生徒が14%いて、高校生全体の6%の2倍以上になっている。

この型は男に多く、男7に対して女3の割合である。

■「つっぱり型」は男の不読派

これに対して、最も本を読まないのはEの「つっぱり型」。全体の6%で、男女比は8対2で圧倒的に男子が多い。音楽を聴いたり、オートバイを乗り回したり、ガールフレンドと一緒にのときが楽しいという面白いタイプ。外でつっぱっている彼らにとって、家族とおしゃべりは苦手。それに勉強はもちろん、読書も好きでない。したがって本の読書量は0.8冊で、「0冊生徒」は72%に達する。しかし雑誌は最もよく読み10.1冊に及び、「雑誌0冊生徒」は6%しかいない。

■「流行追従型」は女の不読派

ついで本を読まないのはFの「流行追従型」。全体の13%だが、男33%、女67%で女子が多く、男の「つっぱり型」の女性版というところ。彼女たちは流行のものを身につけるのが好きで、聖子スタイルの髪に長スカート、スヌーピの柄のズックの手さげぶくろをさげるといったところ……。繁華街をぶらつくのが好きで、人気歌手やタレントの公演に殺到する。ボーイフレンドと一緒にのときも楽しい。だが、自分で楽器を演奏したり合唱するのは好きでない。本を読むことも苦手だ。本の読書量は1.0冊と少なく、本の「0冊生徒」は64%に及ぶ。しかし、雑誌は9.2冊と「つっぱり型」の10.1冊につぐ愛読ぶりだ。「雑誌0冊生徒」は4%と「つっぱり型」の6%を下回り、雑誌不読者

がきわめて少ないのが特徴だ。

■「ワイワイ仲良し型」も読書は苦手

Cの「ワイワイ仲良し型」になると本・雑誌とも苦手。本は月に1冊で全体を下回るが「0冊」は54%で「つっぱり型」や「流行追従型」より少ない。雑誌は7.8冊でこれも全体を下回るが、雑誌の「0冊」は5%で、「つっぱり型」よりも少ない。この型は、友だちや家族とおしゃべりするのが大好きで、歌手やタレントの公演に行くのも好き。テレビやマンガも好きで、ひとりでぼんやりしたり、勉強することは好まない。全体の26%を占め、男女比は「流行追従型」と同じ33対67で女が圧倒的に多い。

■「楽しみ享受型」が平均像

本・雑誌ともに平均的に読んでいるのはA「楽しみ享受型」。音楽を聴いたり、スポーツやゲームをするのが好きな健康的なタイプである。流行のものを身につけたり、繁華街をぶらついたり、タレントの公演などを観に行くのは好きでない。異性との交際にもあまり積極的でなく、ボーイ（ガール）フレンドと一緒にのときも楽しみのうちにあまり入っていない。

この型は全体の39%を占め、数のうえで最も多い。男57%、女43%と男がやや多い。本の読書量は1.2冊、雑誌は7.9冊で、ともに高校生の平均冊数に最も近い。



■なお進む映像化、軽読書傾向

こうしてみると、読書を楽しみとし読書量も最も多いのは「趣味没入型」と「孤独型」だけである。古典名作の愛読書となれば、この両型以外にはあまり期待できそうにない。しかも両型合わせて高校生の16%しかいない。

これに対して非読書派は「つっぱり型」「流行追従型」「ワイワイ仲良し型」を合わせて45%もいて、1カ月に本を1冊も読まない「0冊生徒」52%の主力構成メンバーになっている。

そして平均的な「楽しみ享受型」が89%。本についても雑誌についても平均的だということは、いまの高校生の平均像「本はあまり読まず、読むとすれば映像本かマンガ、情報雑誌ぐらい」の代表者ということである。

こうして高校生たちの日常生活の中での読書の位置づけがはっきりしてみると、読書量の回復や古典の復活はにわかに望めそうにないことがわかる。

社会の風潮や高校生の生活形態は、そう急激に変わるものではない。映像化本や話題本を主流とする高校生の軽読書の風潮は、なお当分は続くことになるだろう。

(1982年版読書世論調査…毎日新聞社より抜粋)



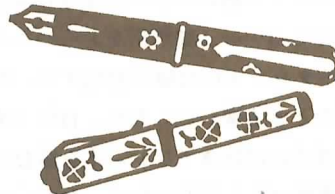
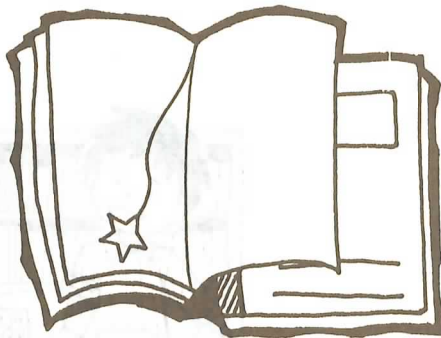
編集後記

昨年読んだ本の中で、最も印象に残ったのは何だっただろうか。最近の読書傾向をみると、書物の選択にも流行を追うところがあるように感じる。この事の良し悪しは別にして、たまには、図書館で眠っている文学全集の一つを取り出して読んでみてはどうだろうか。もしかしたら、その中に最近の書物には見られない、おもしろい事を発見するかもしれません。

ところで、本号(第8号)に掲載したクイズの答は全部わかったかな。とても難しい、難問である。正解を確かめにぜひ図書館に来て下さい。

さあ、今年もいろいろな書物をたくさん読んで、心の成長に役立てて下さい。

(山崎記)



新着図書案内

>0 総 記<

岩波クラシックス 岩 波
 1: 北越雪譜
 2: 職業としての学問
 3: アルプス登攀記(上)
 4: " (下)
 5: ガリヴァー旅行記
 6: 女工哀史
 7: 自省録
 8: おくのほそ道
 9: 歎異抄
 10: フランクリン自伝
 叢書文化の現在 "
 13: 文化の活性化
 朝日選書 朝日新聞社
 193: わがガウディ (栗田 勇)
 194: 危機の科学 (高木仁三郎)
 197: 戦艦武蔵の最期 (渡辺 清)
 198: 長谷川平蔵 (瀧川政次郎)
 199: 丁玲の自伝的回想
 200: 暴力と平和 (坂本義和編)
 201: 沖縄人にとっての戦後(いれいとかし)
 203: 計測の文化史 (橋本 万平)
 204: 古代史論争 (森 秀人)
 205: インド放浪 (藤原 新也)
 207: 混沌の海へ (山田 慶児)
 209: 海の城 (渡辺 清)
 210: 生と死の思想 (鮎田 豊之)
 梅原猛著作集 (梅原 猛) 集英社
 16: 湖の伝説
 図説本の歴史 (寿岳 文章)
 日本エディタースクール
 マイクロコンピュータ基礎講座 オーム社
 2: 入出力制御とシステム構成
 日本の名著 中央公論社
 20: 三浦梅園
 奇跡の集中力 (高橋 浩) P H P 研究所
 やればできる (三上 満良) 青年書院
 闘論 古代史への挑戦 (梅原 猛) 徳間書店
 " 2.科学への挑戦 (") "
 対論 騎馬民族説 (江上 波夫) "
 文化の発想 理科の発想 (太田 次郎) 講談社
 日本人その思想と行動 九州大学公開講座3 九州大学
 コンピュータ犯罪(トマス・ホワイトサイド) 講談社
 マイコンによる知的生産の技術
 (脇 英世) "

パソコンPCシリーズ8001・6001|ハンドブック
 (朝日新聞電子計算室(編))朝日新聞社
 日本語ワードプロセッサの活用法
 (山本 直三) ビジネス・オーム
 マイコンBASICプログラムの作り方
 (笠原 耕文) 日本実業出版社
 パソコン自由自在 (服部康夫等) ダイヤモンド社
 パソコン教本 (山田 一男) 同文書院
 NEC・PC-8001N-BASIC, プログラミング教本
 (横山 淳) 廣済堂出版
 マイコンを効くためのアセンブラ入門
 (押野 崇芳) 日刊工業新聞社
 マイコンプログラミング500題 (田中 廣) "
 PC8000シリーズ: パソコンプログラミング5000題
 |(田中 廣) 日刊工業新聞社
 安田寿明のマイコンに強くなる本
 (安田 寿明) 辰己出版
 マイクロコンピュータソフトウェア技術
 (吉田 征夫) マイテック
 必修TK85で学ぶマイコン制御とアセンブラ入門
 (野澤 繁之) 技術評論社
 N-BASIC100%活用法 (草野 泰秀) "
 はじめて学ぶマイコンのハードとソフト
 (桜井 千春) "
 あなたならわかる図解マイコンの基礎
 (吉本 久泰) 東京電機大学出版
 家電技術者のためのマイコンの使い方
 (阿部 良三) オーム社
 図解マイクロコンピュータZ80の使い方
 (横田 英一) "
 やさしいマイコン入門 (鈴木・大槻) 実業之日本社

>1 哲 学<

世界の聖域 講談社
 18: 神々のアンデス
 別巻2: 敦煌石窟寺院
 ギリシア神話 (串田 孫一) 雪華社
 考える愉しさ (梅原 猛等) 新潮社
 天皇制国家と神話 (戸村政博編)
 日本基督教団出版会
 麗女たち (エリカ・ジョング) サンリオ
 催眠の科学と神話 (H. B. ギブスン) 誠信書房
 心理学入門 (入谷 林) 東海大出版会
 生き方の技術 (W. A. ピーターソン) 実務教育出版
 現代宗教と民主主義 (村上 重良) 三省堂
 隠された十字架 (梅原 猛) 新潮社

> 2 歴 史 <

日本歴史地名大系	平 凡 社	20：幕藩制の転換	(大石慎三郎)
5：秋田県の地名		21：町 人	(中井 信彦)
18：福井県の地名		22：天保改革	(津田 秀夫)
20：長野県の地名		23：開 国	(芝原 拓自)
23：愛知県の地名		24：明治維新	(田中 彰)
26：京都府の地名		25：自由民権	(永井 秀夫)
27：京都市の地名		26：日清・日露	(宇野 俊一)
30：奈良県の地名		27：大正デモクラシー	(鹿野 政直)
35：広島県の地名		28：ブルジョワジーの群像(安藤 良雄)	
36：山口県の地名		29：労働者と農民	(中村 政則)
39：愛媛県の地名		30：十五年戦争	(伊藤 隆)
42：佐賀県の地名		31：戦後変革	(大江志乃夫)
イスラム事典	〃	32：現代の日本	(江口 朴郎)
図説日本の町並み	第 一 法 規	別巻：任那と日本	(金 廷鶴)
2：南東北編		世界現代史	山 川 出 版 社
3：関東編		11：中東現代史(1)	
4：北陸編		36：オセアニア現代史	
10：四国編		ロロロ伝記叢書	理 想 社
11：北九州編		ヘーゲル	
角川日本地名大辞典	角 川	モーツァルト	
22：静岡県		カント	
26：京都府(上, 下)		塔	(梅原 猛)集 英 社
世界歴史地図	帝 国 書 院	東京大空襲の記録	
全訳世界の歴史教科書シリーズ	〃	(東京空襲を記録する会編)三省 堂	
12～15：西ドイツ		世界歴史地図	(R. I. ムーア編)東 京 書 籍
16～18：イタリア		古代への夢	(アーノルド C. ブラックマン)社 会 思 想 社
日本の歴史	小 学 館	ブルーノ・タウト	(S D編集部編)鹿 島 出 版 会
1：倭国の誕生	(直木孝次郎)	謀略家頼朝と武将たち	(小林 林平)共 栄 書 房
2：大王の世紀	(上田 正昭)	ある遺族の二・二六事件	(河野 司)河 出 書 房 新 社
3：飛鳥の朝廷	(井上 光貞)	アムネマチン初登頂	(上越山岳協会)
4：律令国家	(早川 庄八)	ベースボール・マガジン社	
5：古代豪族	(青木 和夫)	沖縄現代史への証言	上, 下(新崎盛暉編)
6：摂関時代	(坂本 賞三)		那覇沖縄タイムス社
7：院政と平氏	(安田 元久)	アラブ民族	(サミール・アミン)亜 紀 書 房
8：王朝貴族	(村井 康彦)	ワルシャワ・ゲッター	
9：鎌倉幕府	(大山 喬平)		(エマヌエル・リングエルブルム)み ず ず 書 房
10：蒙古襲来	(網野 善彦)	ヨーロッパ等旅行	(辻 静雄)鎌 倉 書 房
11：南北朝内乱	(佐藤 和彦)	シルクロードに生きる	(森田 勇造)学 習 研 究 社
12：中世武士団	(石井 進)	Westerman grosser Atlas zur Weltgeschichte 1982	
13：室町幕府	(佐々木銀彌)		Wester man
14：戦国の動乱	(永原 慶二)	北京酔い	(作田 幹)ぱるす出版
15：織田・豊臣政権	(藤木 久志)	白馬、後立山連峰	(現代山岳紀行編)山と溪谷社
16：江戸幕府	(北島 正元)	近畿の山	(仲西政一郎編) 〃
17：鎖 国	(朝尾 直弘)	朝日旅の百科 海外編	朝 日 新 聞 社
18：大 名	(児玉 幸多)	30：メラネシア・ミクロネシア・ニューギニア	
19：元禄時代	(尾藤 正英)	探訪 中国の史跡	(田辺 昭三)角 川
		黄泉の王	(梅原 猛)新 潮 社

関ヶ原合戦 (二木 謙一) 中央公論社
 元 禄 (邑井 操) 大和出版
 ある華族の昭和史 (酒井美意子) 主婦と生活社
 新オートバイからVサイン (堀 ひろ子)
 ロンドン (ブルー・ガイドブックス編) 実業之日本社
 心に楽しい音を (ヘレン E. ウェイト) 日本放送出版協会
 南アルプス北部 (中西 俊明) 東京新聞出版

> 3 社会科学 <

憲法学 1~6 (奥平・杉原) 有斐閣
 新法律学辞典 新版 (我妻 栄等) 〃
 刑法総論 新版・増補 (福田 平) 〃
 コンピュータによるグラフ理論 (V. カクラ等) 共立出版
 地区計画 (日笠 端編) 〃
 日本女性史 東京大学出版会
 1: 原始・古代
 3: 近世
 憲法講義 新版 上, 下 (小林 直樹) 〃
 民法総則 (四宮 和夫) 弘文堂
 会社法通論 (服部 栄三) 同文館
 刑法各論 (吉川 経夫) 法律文化社
 犯罪の社会学 (間庭 充幸) 世界思想社
 人間のための教育 増補版 (和田 重正) 柏樹社
 教室のドンキホーテ (村田 栄一) 筑摩
 恐怖の覚せい剤 (NHK取坂班) 日本放送出版協会
 日本経済を読むポイント 教育開発研究所
 日本の経営力 (上野 明) 徳間書店
 世紀末を生きる知恵 (木村・渡部) サンケイ
 差別 伝統と現代社
 日本型親子 (稲村 博等) 講談社
 ブッシュマン (E. M. トーマス) 海鳴社
 長男との結婚 (米地 実) P H P 研究所
 沖縄の島医者 (藤江 良雄) サイマル出版会
 こころの進化 (小比木啓吾) CBSソニー出版
 イギリス〜くにとひと(ピーター・ミルワード) 英友社
 ベトナム航空戦 (W. モーマイヤー) 原書房
 不可触民の道 (山際 素男) 三一書房
 学歴主義の発展構造 (岩田 龍子) 日本評論社
 青年の生と死との間 (石井完一郎) 弘文堂
 ブラジル成功物語 (三好 耕三) 長崎出版
 実践オフィスオートメーション (山本 直三) 青葉出版

> 4 自然科学 <

交通流の数学モデル (R. ハーバーマン) 現代数学社
 力学的振動の数学モデル (〃) 〃
 個体群成長の数学モデル (〃) 〃
 複素解析 (L. V. アールフォルス) 〃
 重力と力学的世界 (山本 義隆) 〃
 応用微分方程式論 (永宮 健夫) 共立出版
 図説 化学 (山村 等等) 〃
 ケムス化学 (奥野久輝等) 〃
 新化学実験図鑑 (山本大二郎編) 講談社
 ナフィールド化学 1~5 (〃) 〃
 原色牧野植物大図鑑 (牧野富太郎) 北隆館
 基礎電磁気学 (矢作吉之助) 産業図書
 恒星と銀河 (小平 桂一) 〃
 応用数学講座
 10: ラプラス変換・演算子法 コロナ社
 誤差論 (カール F. ガウス) 紀伊國屋
 図解分子の見方・考え方 (吉弘 芳郎) オーム社
 化学のシステム (J. A. キャンベル) 丸善
 銀河宇宙の神秘 (ティモシー・フェリス) 旺文社
 図学 (成瀬政男等) 裳華房
 現代生物学 (山本護太郎等) 森北出版
 生物学資料集 東京大学出版会
 デルタ関数と微分方程式 (並木美喜雄) 岩波
 現代代数学概論 (ガーレット・バーコフ) 白水社
 ランダムデータの統計的処理 (J. S. ベンダット) 培風館
 図学 (佐藤運男等) 山海堂
 技術者のための数学の要点 理工図書
 1: 線形数学・計算法
 色 (東 堯)
 生産技術センター新社
 現代数学の基礎演習 (D. T. E. マージュラム) 培風館
 詳解化学計算問題の解き方 (表 美守) 昇龍堂出版
 新高校課程 物理 上, 下 (原島 鮮) 裳華房
 理解しやすい物理 I, II (近角 聰信) 文英堂
 ジャストロウコスモストリオ (ロバート・ジャストロウ) 集英社
 1: 壮大なる宇宙の誕生
 2: もう一つの宇宙
 3: 太陽が死ぬ日まで
 ヒトの住む星 (NHK現代科学グループ) 日本生産性本部
 詳解数値計算演習 (戸川 隼人) 共立出版
 発想の現場 (柳田邦男等) 講談社
 喫煙の医学 (並木・平山) 〃
 テクノトピアをこえて (吉岡 斉) 社会評論社
 山の天気予報手帳 (飯田睦治郎) 山と溪谷社

アレルギーとぜんそく (吉田 豊)新星出版社
 おもしろいからだの生理学 (アキムシキン)東京図書
 こととからだのQ & A
 (ワイラー・エルティング) "

化学演示実験 (島原 健三)三共出版
 化学計算必携 (北出・楠見)産業図書
 新編 生物図解 (田中 隆荘)第一学習社
 図学教程 (磯田・広部)東京大学出版会



> 5 工 学 <

SD選書 鹿島出版会
 172: 建築家の発想
 173: 日本の空間構造
 現代の建築家
 菊竹 清訓
 林 雅子
 低層集合住宅のレイアウト
 (GLC(大ロンドン庁)編) "
 集合住宅ファイル・ブック
 (都市住宅編集部編) "
 土木工学における岩盤力学 (飯田 隆一)彰 国 社
 タウンハウスの計画技法 (高見沢邦郎等) "
 現代住宅の設計手法 (彰国社編) "
 今日のディテール 4 "
 電気工学を学ぶ人のために (雨宮 好文)オ ー ム 社
 初めて学ぶ人のための電気 (藤 了念) "
 初等電気工学 (牧野 秀雄) "
 省エネルギー読本
 (省エネルギー編集委員会) "
 快適な集合住宅の計画 (堺 博信) "
 図解熱力学の学び方(続) (北山 直方) "
 だれにもわかる 矩計図の見方・かき方
 (岸田林太郎) "
 だれにもわかる 建築図面の見方・かき方
 (") "
 建築の詳細図集 (西田 順一) "
 電子・通信・電気工学基礎講座 丸 善
 11: エネルギー変換工学基礎論

大学講義 電気・機械エネルギー変換工学
 (宮入 庄太)丸 善
 金属の凝固 (Bruce・Chalmers) "
 若い技術者のための機械金属材料
 (矢島悦次郎等) "
 初等塑性力学 (竹山 寿夫) "
 境界要素法 (田中 正隆) "
 建築設計資料集成 "
 7: 建築~文化 (日本建築学会編)
 わかる構造設計 (山田 修)学芸出版社
 わかる建築施工 (森安 四郎) "
 わかる木構造 (長尾 斉) "
 新体系土木工学 (土木学会編)技 報 堂
 35: プレストレストコンクリート構造物
 の設計と施工
 59: 土木景観計画
 100: 建設機械
 別巻: 海外建設プロジェクトと建設輸出
 測量学 (中村・村井) "
 パーチカルドレーン工法の設計と施工管理
 (吉国 洋) "
 材料強度学 (横堀 武夫) "
 土木工学全集 11: 水理学
 (土木工学編集委員会)理 工 図 書
 道路工学 (森 満雄) "
 機械工学基礎講座 "
 工業熱力学
 機械設計工学
 機械力学
 機械製図の基礎 (浜島 潔)
 初歩の電気工学 (沢 莊平)理 工 学 社
 3次元測量 (森沢武司郎)東海大学出版会
 応用土質基礎工学 下 (森田 定市) "
 境界要素法の基礎と応用(C. A. プレビア)培 風 館
 境界要素法入門 (") "
 海岸水理学 (河野 二夫)森 北 出 版
 河川水文学 (高瀬 信忠) "
 最新土木工学シリーズ "
 4: 最新水理学 1
 5: " 2
 エンジンのチューニングアップ (大山 肇)山 海 堂
 橋りょうの耐震計算 (西山啓伸等) "
 鋼矢板工法 上, 下 (石黒 健等) "
 設計計画シリーズ 井 上 書 院
 研修所
 ショッピングモール

集合住宅 (増沢 洵)井上書院
 自動車工学講座 明現社
 内燃機関～構造編
 電気工学の基礎 上, 下
 計量管理技術双書 コロナ社
 41: 計測概論
 42: 統計手法と計測 上
 43: " 下
 電気回路 (中野 義映) "
 電子通信学会大学講座 "
 30: 電力工学概論
 基本電気学 (松下祐輔等) "
 金属組織学序論 (阿部 秀夫) "
 機械工学大系 32: ロケット工学 "
 新選材料力学演習 (大久保肇等)養賢堂
 潤滑用語集 (日本潤滑学会編) "
 工業塑性力学 (益田 森治) "
 新選材料試験方法 (中川 元等) "
 マイクロコンピュータ用語辞典(矢田 光治)日刊工業
 マイコンによる機械制御技術(杉田 総等) "
 プロセス計測制御便覧 "
 電気回路理論 (成田・小林)昭晃堂
 工学システムの基礎 (斉藤 正男) "
 電気学会大学講座 電気学会
 電気工学概論
 電気磁気学
 詳解材料力学演習 上, 下 (斉藤・平井)共立出版
 詳解電気回路演習 上, 下 (大下眞二郎) "
 振動工学の基礎 (添田 喬等)日新出版
 構造力学とエネルギー原型
 (T. R. トーカート)ブレイン図書
 日本工業史 (横井 時冬)原書房
 現代測量学 日本測量協会
 1: 測量の数学的基礎
 2: 測量計測概論



設計技術者のための
 基礎・水理・河川の実施設計シリーズ1
 (柴田 道生)現代理工学出版
 生きものの建築学 (長谷川 堯)平凡社
 図説西洋建築物語 (ビル・ライズベロ)グラフィック社
 日本の建築〔明治大正昭和〕三省堂
 8: 様式美の挽歌
 F. L. ライトの実測図集 (谷川 正己)グラフィック社
 図解建築工事の進め方 (山室 滋)市ヶ谷出版社
 冷凍機の理論と性能 (源生一太郎)日本冷凍協会
 工学基礎熱力学 (S I単位による全訂版)
 (谷下 市松)裳華房
 ターボ車の知識と特性 (三橋 孝)グランプリ出版
 気化器の理論と実際 (吉田 隆)鉄道日本社
 機械工学S Iマニュアル 日本機械学会
 電気・電子英語便覧 (岡地 栄)日本工業
 大学電気・電子工学シリーズ 槇書店
 送配電工学
 電気機器の入門 (磯部 直吉)
 東京電機大学出版局
 精解演習 電力工学 (鬼頭 幸生)広川書店
 最新半導体素子入門 (伊藤糾次等)誠文堂新光社
 冶金実用数学 (革便 巖等)科学技術社
 吉兆味ばなし (湯木 貞一)暮しの手帳社
 GA document special issue 1, 2 EDITA Tokyo
 初歩の電気読本 (小沢 彰)オーム社
 初めて学ぶ建築計画 (富井 寛治) "
 住まいの設計 入門心得帳 (尾上 考一) "
 電子技術はてなシリーズ (時田 元昭)電子技術出版
 1: はてな?電気とは...
 ヤマハ残骸物語 (北川 祐)エール出版
 技術強国 日本の戦略 (森谷 正規)PH P研究所
 マイ・ビデオ入門 (石原 隆一)講談社
 誰にもわかるディーゼル機関(中谷 勝紀)海文堂
 ディーゼル自動車の本 (杉本 和俊)山海堂
 破壊の基礎 (上田 祐男)パワー社
 鋼の選び方 (小池榮一郎)アグネ
 ジェット輸送機 (落合 一夫)日本航空技術協会
 カラー図解ヘリコプタ入門 "
 はじめて学ぶ電気の計算と基礎知識
 (福田 務)技術評論社
 マイコン時代に学ぶ電子用語の基礎解説
 (工藤 利夫) "
 宅建主任者試験必携 (受験新報編集部編)法学書院
 新制電気数学 改訂新版 (後藤・木下)オーム社
 絵とき電気工事技術百科早わかり
 (島原 大) "
 だれにでもわかる入門電気シリーズ
 (森本・永嶋)啓学出版

4: 発電から利用まで
 やさしい電気と電子の理論 (若山・鈴木)啓学出版
 これでわかった電気の理論 (原 正人) 〃
 電気工事士のための電気工学の基礎
 (浅井 吉弥)東京電機大学出版
 初等電気 (東京電機大学出版局編) 〃
 電気学会電気専門用語集 (電気学会編)コロナ社
 4: 磁気増幅器
 多様化する人びとの欲求 (槐山貞発他)鹿島出版会
 これだけは知っておきたい塗装工事の知識
 (高橋 孝治) 〃
 初学者のための建築設計と製図法
 (大塚 常雄)理工学社
 住宅工事の要点
 木構造 (鈴木 三郎)井上書院
 屋根と雨任舞 (杉山・渡辺) 〃
 給排水衛生設備 (斉藤 武男) 〃
 内装 (保新 隆) 〃
 外装 (〃) 〃
 建具 (杉山 健治) 〃
 造作 (杉山・林) 〃
 住宅工事の要点基礎 (鈴木 三郎) 〃
 図解鉄筋コンクリート造建築入門
 (尾上 孝一) 〃
 建築デザインと構造計画 (村尾成文等)彰国社
 建築計画チェックリスト集会、催し施設 〃
 高層集合住宅の設計計画
 (日本建築学会編) 〃
 日本建築学会設計計画パンフレット 〃
 26: ハンディキャップ者配慮の設計手引
 ディテールの設計 部分詳細から矩計へ 〃
 ディテール別冊 〃
 鉄骨造入門 設計の基本とディテール
 現代木造住宅のディテール 基本と応用
 技術新時代 (朝日新聞経済部)朝日新聞社
 電気材料マニュアル (大森豊明編)
 新技術開発センター
 ザ ベストカー 82 (星島・岡崎)山海堂
 ジェントルマンの文化 (鈴木 博之)日本経済新聞社
 新・匠の時代 (内藤 克人)サンケイ出版
 エネルギーを考える (藤井・武安)日本放送出版協会
 住宅図集 (住宅金融普及協会)永田書房

>6 産 業<

土壌の物理 (八幡 敏雄)東京大学出版会

>7 芸 術<

日本古寺美術全集 集英社
 19: 山陰・山陽の古寺
 24: 妙心寺
 原色浮世絵大百科辞典 大修館
 2: 浮世絵師
 西洋美術全史 グラフィック社
 12: 比較様式論
 水平運動の人々 (山田 梅雄)部落問題研究所
 スクール・カット集 マール社
 1. 子どもの生活 365 日
 2. 学校生活
 3. 家庭生活
 4. スポーツ・物語
 5. 動植物・風景
 サイクリング (遠藤 祐弘)実業之日本社
 変わった山歩き手帳 (横山 厚夫)山と溪谷社

>8 語 学<

オックスフォード・カラー英和対辞典 1~7 福武書店
 広漢和辞典 上、中、下 (諸橋轍次等)大修館



> 9 文 学 <

芥川龍之介全集 1~4 (芥川龍之介) 岩 波
 井上靖歴史小説集 (井上 靖) "

8: 後白河院・楊貴妃伝
 さまよえる歌集~赤人の世界(梅原 猛)集 英 社
 歌の復籍~柿本朝臣人磨歌集論~ 上, 下
 (") "

水底の歌~柿本人磨論~ 上, 下
 (") 新 潮 社

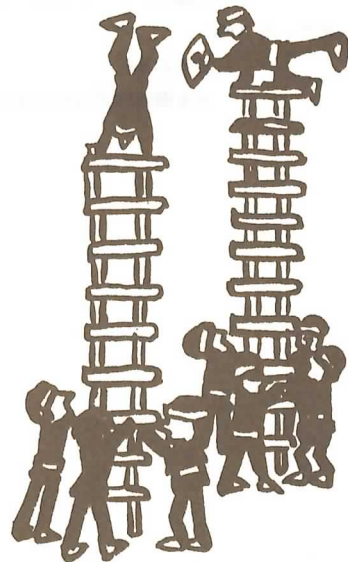
読書案内〔中学・高校編〕(日本文学協会)大 修 館
 古典の発見 (梅原 猛) 講 談 社
 夢の力 (中上 健次) "
 シベリヤの勲章 (鈴木 敏夫) 光 人 社 刊
 太陽の王 (立松 和平) 新 潮 社
 珊瑚の枕 上, 下 (陳 舜 臣) "
 北の国から(前編) (倉本 聰) 理 論 社
 君は海を見たか (") "
 源 義経 (長部日出雄) 学 習 研 究 社
 古事記 (梅原 猛) "
 Wの悲劇 (夏樹 静子) カッパ・ノベルス
 はぐれ刑事 (藤本 義一) "
 核ジャック部隊 (ジェイムズ・ロウ) "
 風のような物語 (ヴァン・デル・ポスト) サ ン リ オ
 フランス軍 中尉の女 (ジョン・ファウルズ) "

エロイカ変奏曲 (三田 誠広) 角 川
 漂 流 (春名 徹) "
 俺は先生 (三好 京三) 文 藝 春 秋
 破 船 (吉村 昭) 筑 摩 書 房
 デスマッチ風 男と女のショートショート并 (村松 友視) 徳 間 書 店
 逆軍の旗 (藤沢 周平) 青 樹 社
 ヒロシマ歷程 (原田 東岷) 未 来 社
 沖縄戦記 (飯田 邦光) 三 一 書 房
 ベトナム枯れ葉作戦の傷跡 (轡田 隆史) すざさわ書店

岩波新書
 194: 一 揆 (勝俣 鎮夫)
 195: 現代の核兵器 (高榎 堯)
 196: 雪津集 (小林 直樹)
 197: クモの不思議 (吉倉 眞)
 198: ビルマ敗戦行記 (荒木 進)
 199: パナナと日本人 (鶴見 良行)
 200: 朝鮮人女工のうた (金 贊 汀)
 201: 情熱の行方 (堀田 善衛)
 202: 現代史の幕あけ (河野 健二)
 203: 軍縮の政治学 (坂本 義和)

204: 文化人類学への招待 (山口 昌男)
 205: 漢字の過去と未来 (藤堂 明保)
 206: ピープス氏の秘められた日記 (白田 昭)
 207: 星の古記録 (斉藤 国治)
 208: 人間年輪学入門 (宮城 音弥)
 209: 日本旧石器時代 (芹沢 長介)
 210: 動物園の獣医さん (川崎 泉)

岩波ジュニア新書
 45: 日本の美術 (水尾比呂志)
 46: 食糧問題ときみたち (吉田 武彦)
 47: 最新科学の常識 (星野 芳郎)
 48: 広島・長崎修学旅行案内 (松元 寛)
 49: 元素103 (高木仁三郎)
 50: 登山入門 (近藤 信行)
 51: 京都史跡見学 (村井 康彦)



カラーブックス

- 574: 日本の私鉄⑦ 北関東北海道東北
 - 575: 露天風呂
 - 576: 李朝のやきもの
 - 577: 軽便鉄道
 - 578: 健康酒入門
 - 579: 漆工芸
 - 580: 日本の私鉄⑧ 大阪市営地下鉄
 - 581: 近江三十三カ所
 - 582: ちぎり絵入門
 - 583: 日本の私鉄⑨ 南関東・甲信越
 - 584: 子ねこ
 - 585: 野生らん
- 建設白書 昭和57年度版
 日本国勢図会 1982年版

寄贈図書

寄贈者	書名(著者)
建設省中国地方建設局	中国地方建設局30年のあゆみ
〃	第33回管内技術研究会論文集
PHP研究所	日本と日本人について (松下幸之助)
広島女子大学	広島女子大学地域研究業書Ⅲ 広島県の海陸風(宮田賢二編)
文部省科学研究費特定研究	光導波エレクトロニクス
日立エレベータサービス㈱	25年の歩み
日本鋼管㈱	日本鋼管株式会社70年史

